

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

民博通信 no.162; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立民族学博物館, National Museum of Ethnology 公開日: 2018-12-15 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009168

民博通信

評論・展望

水俣病を伝えるという運動

ブルデュー実践理論によるアプローチ

平井京之介

No. 162

2018



目次

国立民族学博物館の研究	03
水俣病を伝えるという運動 —ブルデュー実践理論によるアプローチ 平井京之介	04
プラットフォームとしてデータベースの活用 —台湾でのワークショップの経験から 基幹研究●台湾および周辺島嶼生態環境における物質文化の生態学的適応 野林厚志	10
地球の生き物と人との共生を求めて —民博・特別研究のシンポジウムから 特別研究●生物・文化的多様性の歴史生態学 —希少動物・希少植物の利用と保護を中心に 池谷和信	12
人類学史の新たな展望 共同研究●人類学／民俗学の学知と国民国家の関係 —20世紀前半のナショナリズムとインテリジェンス 中生勝美	14
サブスタンスの人類学に向けて —サブスタンス論とサブスタンス研究の整理 共同研究●グローバル化時代のサブスタンスの社会的配置に関する比較研究 松尾瑞穂	16
21世紀の博物館における保存科学 共同研究●博物館における持続可能な資料管理および環境整備 —保存科学の視点から 園田直子	18
獣肉食は日常化するか —都市での獣肉消費と肉食の倫理 共同研究●消費からみた狩猟研究の新展開 —野生獣肉の流通と食文化をめぐる応用人類学的研究 大石高典	20
身体技法論においてテクノロジーとはいかなる問題でありうるか 共同研究●テクノロジー利用を伴う身体技法に関する学術的研究 吉川侑輝	22
Association for Asian Studies とその年次大会 太田心平	24
イタリアにおける食研究からみえるもの 宇田川妙子	25
はじめて学ぶ文化人類学—人物・古典・名著からの誘い 岸上伸啓	26
みんなのうごき	27

評論・
展望

研究プロジェクト

海外研究動向

出版物

研究情報

②	①
③	

表紙写真

- ① 水俣市茂道漁港での相思社水俣まち案内(本誌4-9頁)
- ② 指紋認証システムを利用してメンバーの参加を把握する人間の塔のメンバーたち(本誌22-23頁)
- ③ ナポリ近くの海沿いにたつ地中海料理博物館。MERと協力しながら運営されている(本誌25頁)

民博通信 No.162

『民博通信』は、国立民族学博物館の研究広報誌です。本館において、現在計画中、および進行中の研究について、その学術的な特色、独創的な点、期待される成果などを、研究者を中心に広く発信するのが目的です。



国立民族学博物館オセアニア展示場 羽毛貞 H0086151

民博通信 No.162
2018年9月28日

編集委員

卯田宗平（編集長）
伊藤敦規
宇田川妙子
藤本透子
三尾 稔

編集・発行

人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話：06-6879-2151
<http://www.minpaku.ac.jp/>

制作

毎日新聞大阪本社 大阪事業本部

【基幹研究プロジェクト】

人間文化研究機構は、人間文化の新たな価値体系の創出をめざして、国内外の研究機関や地域社会等と組織的に連携し、現代的諸課題の解明に資する「基幹研究プロジェクト」を推進します。機関拠点型・広領域連携型・ネットワーク型の3つの類型から構成され、本館でもそれぞれのプロジェクトに取り組んでいます。

【特別研究】

「現代文明と人類と未来—環境・文化・人間」を統一テーマとし、環境、食、文化衝突、文化遺産、マイノリティ、人口問題という課題にかんして、それぞれ3年の研究期間を設定し、国際シンポジウムや欧文での成果刊行を行い、研究を実施していく。その作業を通じて、現代文明を人類学的な視座から再検証することを目的とする。

【共同研究】

特定のテーマについて、公募も含めて館内外の専門家を数人から20人程度集めて研究会をひらき、2～3年の期間で成果をあげる活動です。2018年度には、10月から開始される7件を含め31件の共同研究プロジェクトが組織されています。

【基幹研究プロジェクト】

プロジェクト名	研究代表者	研究期間(年度)
機関拠点型プロジェクト/人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築		
○開発型		
中央・北アジアの物質文化に関する研究—民博収蔵の標本資料を中心に	寺村 裕史	2018-2021
アフリカ資料の多言語双方向データベースの構築	飯田 卓	2017-2020
民博が所蔵するアイヌ民族資料の形成と記録の再検討	齋藤 玲子	2016-2019
台湾および周辺島嶼生態環境における物質文化の生態学的適応	野林 厚志	2015-2018
○強化型		
民博所蔵「朝枝利男コレクション」のデータベースの構築—オセアニア資料を中心に	丹羽 典生	2018-2019
ネパールのガンダルバ映像音響資料に関する情報共有型データベースの構築	南 真木人	2018-2019
中南米地域の文化資料のフォーラム型情報データベースの構築	八木 百合子	2018-2019
朝鮮半島関連の資料データベースの強化と国際的な接合に関する日米共同研究	太田 心平	2017-2019
中東地域民衆文化資料コレクションを中心とするフォーラム型情報データベース	西尾 哲夫	2017-2018
広領域連携型プロジェクト		
文明社会における食の布置(「アジアにおけるエコヘルス研究の新展開」内のユニット)	野林 厚志	2016-2021
日本列島における地域文化の再発見とその表象システムの構築(「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」内のユニット)	日高 真吾	2016-2021
ネットワーク型プロジェクト		
北東アジア地域研究	池谷 和信	2016-2021
現代中東地域研究	西尾 哲夫	2016-2021
南アジア地域研究	三尾 稔	2016-2021

【特別研究】

研究課題	研究代表者	研究期間(年度)
パフォーマンス・アーツと積極的共生	寺田 吉孝	2018-2020
食料生産システムの文明論	野林 厚志	2017-2019
生物・文化的多様性の歴史生態学—希少動物・希少植物の利用と保護を中心に	池谷 和信/岸上 伸啓	2016-2018

【共同研究】

●は館外の代表者

研究課題	研究代表者	研究期間(年度)
◎一般		
課題1: 文化人類学・民族学および関連諸分野を含む幅広い研究		
オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究	風間 計博	2018-2021 ●
統治のフロンティア空間をめぐる人類学—国家・資本・住民の関係を考察する	佐川 徹	2018-2021 ●
カネとチカラの民族誌—公共性の生態学にむけて	内藤 直樹	2018-2021 ●
伝統染織品の生産と消費—文化遺産化・観光化によるローカルな意味の変容をめぐる	中谷 文美	2018-2021 ●
心配と係り合いについての人類学的探求	西 真如	2018-2021 ●
グローバル時代における「寛容性/非寛容性」をめぐるナラティブ・ポリティクス	山 泰幸	2018-2021 ●
ネオリベラリズムの中のモラリティ	田沼 幸子	2017-2020 ●
人類学/民俗学の学知と国民国家の関係—20世紀前半のナショナリズムとインテリジェンス	中生 勝美	2017-2020 ●
文化人類学を自然化する	中川 敏	2017-2020 ●
現代日本における「看取り文化」の再構築に関する人類学的研究	浮ヶ谷 幸代	2016-2019 ●
もうひとつのドメスティケーション—家畜化と栽培化に関する人類学的研究	卯田 宗平	2016-2018 ●
捕鯨と環境倫理	岸上 伸啓	2016-2019 ●
会計学と人類学の融合	出口 正之	2016-2018 ●
音楽する身体間の相互作用を捉える—ミュージッキングの学際的研究	野澤 豊一	2016-2019 ●
「障害」概念の再検討—触文化論に基づく「合理的配慮」の提案に向けて	廣瀬 浩二郎	2016-2018 ●
考古学の民族誌—考古学的知識の多様な形成・利用・変成過程の研究	ERTL, John	2015-2018 ●
医療者向け医療人類学教育の検討—保健医療福祉専門職との協働	飯田 淳子	2015-2018 ●
確率的事象と不確実性の人類学—「リスク社会」化に抗する世界像の描出	市野澤 潤平	2015-2018 ●
宇宙開発に関する文化人類学からの接近	岡田 浩樹	2015-2018 ●
個—世界論—中東から広がる移動と遭遇のダイナミズム	齋藤 剛	2015-2018 ●
放射線影響をめぐる「当事者性」に関する学際的研究	中原 聖乃	2015-2018 ●
応援の人類学—政治・スポーツ・ファン文化からみた利他性の比較民族誌	丹羽 典生	2015-2018 ●
グローバル化時代のサブスタンスの社会的布置に関する比較研究	松尾 瑞穂	2015-2018 ●
驚異と怪異—想像界の比較研究	山中 由里子	2015-2018 ●
課題2: 本館の所蔵する資料に関する研究		
博物館における持続可能な資料管理および環境整備—保存科学の視点から	園田 直子	2017-2020 ●
物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究	縄田 浩志	2016-2019 ●
チベット仏教古派及びボン教の護符に関する記述研究	長野 泰彦	2015-2018 ●

◎若手

研究課題	研究代表者	研究期間(年度)
課題1: 文化人類学・民族学および関連諸分野を含む幅広い研究		
拡張された場における映像実験プロジェクト	藤田 瑞穂	2018-2020 ●
モノをとおして見る現代の宗教的世界の諸相	八木 百合子	2017-2019 ●
消費からみた狩猟研究の新展開—野生獣肉の流通と食文化をめぐる応用人類学的研究	大石 高典	2016-2018 ●
テクノロジー利用を伴う身体技法に関する学際的研究	平田 晶子	2016-2018 ●

◆ 研究部の人事異動

◆ 研究部教員の着任(8月1日付)

鈴木英明(すずき ひであき)がグローバル現象研究部の助教として着任しました。専門は歴史学。アフリカ大陸東部沿岸を中心としたインド洋海域史、とりわけ19世紀の奴隷交易を中心に研究してきました。最近では、世界史にも関心を広げ、奴隷廃止を世界史的共通体験としてとらえ、そこから世界史を考えようともしています。

◆ 受賞

齋藤晃教授「大同生命地域研究奨励賞」受賞(2018年7月20日)

◆ シンポジウム等

◆ 特別展示「中国の鵝飼—卯田宗平フォトコレクションから」

会期：2018年9月5日(水)～11月5日(月)

場所：長良川うかいミュージアム

◆ 国際シンポジウム「フィジー諸語と地理情報システム、および博物館展示への応用」

日時：2018年9月20日(木)

場所：国立民族学博物館

後援：日本言語学会、日本歴史言語学会、日本オセアニア学会

◆ 特別展「国立民族学博物館コレクション ビーズ—つなぐ・かざる・みせる Beads in the World」

会期：2018年9月22日(土)～11月25日(日)

場所：岡山市立オリエント美術館

◆ 国際シンポジウム「ミュージアムの未来—人類学的パースペクティブ」

日時：2018年9月28日(金)

場所：グランフロント大阪

企画：NIHU基幹研究プロジェクト機関拠点型「人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築」、学術資源研究開発センター

◆ 平成30年度みんなく若手研究者奨励セミナー「時空間を超える知識の共有—タテにつながる、ヨコにつながる」

日時：2018年11月8日(木)～9日(金)

場所：国立民族学博物館

◆ 刊行物

『社会主义制度下的中国饮食文化与日常生活』(SER144)

河合洋尚・刘征宇編、2018年2月、国立民族学博物館。

『肉食行為の研究』

野林厚志編、2018年3月、平凡社。

『展覧会の研究「ラテンアメリカの音楽と楽器」展アンケート調査を中心として』(SER145)

山本紀夫著、2018年3月、国立民族学博物館。

『人類学視野下的歴史、文化と博物館—当代日本和中国的理論実践』(SES No.97)

韓敏・色音編、2018年3月、国立民族学博物館。

Let's Talk about Trees: Genetic Relationships of Languages and Their Phylogenetic Representation (SES No.98).

Ritsuko Kikusawa and Lawrence A. Reid (eds.), Mar. 2018, National Museum of Ethnology.

Satawalese Cultural Dictionary(SER146).

Sabino Sauchomal, Tomoya Akimichi, Shuzo Ishimori, Ken'ichi Sudo, Hiroshi Sugita, and Ritsuko Kikusawa (comp.) Lawrence A. Reid (ed.), Mar. 2018, National Museum of Ethnology.

『東南アジアのポピュラーカルチャー—アイデンティティ・国家・グローバル化』

福岡まどか・福岡正太編、2018年3月、スタイルノート。

『海民の移動誌—西太平洋のネットワーク社会』

小野林太郎・長津一史・印東道子編、2018年3月、昭和堂。